

旧約聖書を読んで感じる事 (113) 偉大な統治者キュロス大王



キュロスII 浮彫

ユダ王国は紀元前 597 年に、ゼデキヤ王治世の 11 年目に、バビロンのネブカドネツアルによって陥落させられ、滅亡しました。神殿、王宮、エルサレムは焼き払われ、民は殺され、祭具、宝物は奪われ、王族、王の側近、高官、祭司、有力な民はバビロンに囚人として引いて行かれました。ユダはバビロンの統治下におかれ、荒地地となりはてました。

時は流れ、メディア王国の属国アンシャンの王であったキュロス II 世が台頭し、メディアを始め、バビロン、小アジアを制圧し、古代オリエント世界の覇者、King of kings となり、当時、最大のペルシャ帝国を築きました。帝国を 4 つの州に分け、総督を置き、それぞれに自治権を与えました。

バビロンは紀元前 539 年に滅ぼされ、ユダヤ人は解放されました。それは捕囚後 70 年のことでした。キュロスは、捕囚の奴隷となっていたすべての民族に寛大であり、それぞれに帰国を許しました。

聖書には何度かキュロスの名前が登場します。バビロン捕囚の民の一人となったダニエルは、宮廷の小姓に選ばれ、仕えていましたが、バビロンが滅ぼされた後も、こうしてダニエルは、ダレイオスとペルシアのキュロスの治世を通して活躍した(ダニ 6:29)と宮廷で引き続きキュロス王のために預言活動をしたという黙示文学があります。

第二イザヤ(イザヤ書 40 章~55 章の著者とされる預言者)が、キュロスをユダヤ人解放の救世主として賛美しています。異邦の王を「主が油を注がれた人」と記するのはここだけです。

キュロスに向かって、わたしの牧者／わたしの望みを成就させる者、と言う。エルサレムには、再建される、と言い／神殿には基が置かれる、と言う。主が油を注がれた人キュロスについて／主はこう言われる。わたしは彼の右の手を固く取り／国々を彼に従わせ、王たちの武装を解かせる。扉は彼の前に開かれ／どの城門も閉ざされることはない。(イザ44:28-45:1)

エズラ記には、キュロスがユダヤ人の帰還と神殿再建を命じたという文言が記されている箇所が 6 回でてきます。文書によって布告されたと述べています。



キュロスIIの円筒

1879 年に発掘された円筒には、楔形文字でキュロスの言葉が記されていて、重要な資料となっています。キュロスがバビロンの王、世界の王になった証拠として、バビロンの神殿を修復し、バビロンの神マルドゥクにも捧げものをしたことが記されているのです。当時ペルシャではゾロアスター教が信仰されていましたが、様々な民族を統治する世界の王としての地位を確固とするため、「郷に入れば郷に従え」の姿勢で

それぞれの地域、民の習慣、宗教を尊重したのです。碑文には「全ての民族は平和に暮らし、また自分の神に自由に捧げものができるようにする」と記されていますが、「ユダヤ人」と特定して帰還や、神殿再建を命じる部分は記されていません。けれども、キュロスの円筒の碑文の言葉は、1971 年に国連のウ・タント事務総長によって、「古代の人権憲章」の遺物として評価され、また、大英博物館では「異民族、他宗教による国家の治国策」と見なせるとしています。ペルシャは現在のイランです。建国の父キュロス大王のこの思想を学び、生かしてほしいものです。



キュロス大王の征服地図 アンシャン(青)より出発